

大阪日々新聞

二百七十六号

飾磨縣下中村に住る田村龜吉

その名を業とする小明治七
 戌十二月十五日士族二名此家
 止宿す又商人一人隣の
 間小止宿さる若干の
 金を主の預け安心
 して引せり夜半及び
 志族の胸を刺す君の傍かき
 しりあると云われ情あふ者を
 藪とすへんじりめり龜吉の
 息の隣家小あまび夜あけて
 飯り商人の寐床
 是幸いとや
 ころころ父の
 かくともあふえ
 の短刀持て去のひ来り我子とつゆあふ
 嘆を口一カはし通し斤手小陰囊を
 つりくあふるれが聲をもりけで
 去てたり士族ハ此音あふすを
 立聞よく朝龜吉を縛して
 其區の會議所へ送らる

柳櫻記

旅籠屋龜吉



女受口

傳川

